

## ワクチン情報文書

# 血清群ACWY髄膜炎菌ワクチン 知っておきたいこと

Many Vaccine Information Statements are available in Japanese and other languages. See [www.immunize.org/vis](http://www.immunize.org/vis)

多くのワクチン情報文書が日本語その他の言語で準備されています。  
[www.immunize.org/vis](http://www.immunize.org/vis) をご覧ください。

## 1 なぜワクチン接種が必要ですか？

髄膜炎疾患は髄膜炎菌と呼ばれる細菌が原因となる重大な病気です。髄膜炎(脳と脊髄を包む髄膜の感染)や血液の感染に進展する場合があります。髄膜炎疾患は健康体であっても、前触れなく発症することが頻繁にあります。

髄膜炎疾患は、密接な接触(咳やキス)や長時間の接触、特に同居者の間で、人から人へと感染します。

「血清群」髄膜炎菌には少なくとも12種類あります。ほとんどの髄膜炎疾患は、血清群A・B・C・W・Yが原因です。

髄膜炎疾患は誰でも発症しますが、次のような場合、感染の危険性が高まります：

- ・ 1歳未満の乳幼児
- ・ 16-23歳の青年および成人
- ・ 免疫力が衰える病気にかかっている場合
- ・ 髄膜炎菌隔離者と日常的に接触する微生物学者
- ・ 感染者が出た地域の住民

適切な治療が行われても、髄膜炎菌感染者の死亡率は100人中10～15人にのぼります。死に至らなかった場合でも、100人中10-20人の感染者に、聴力障害・脳の損傷・腎臓の損傷・切断・神経系の問題・皮膚移植によるひどい傷跡などの重い後遺症が残ります。

血清群ACWY髄膜炎菌ワクチン接種により、血清群A・C・W・Yが原因となる髄膜炎菌性疾患が予防できます。血清群Bによる感染予防には別のワクチンの接種が可能です。

## 2 血清群ACWY髄膜炎菌ワクチン

髄膜炎菌結合型ワクチン(MenACWY)は、FDA(米国食品医薬品局)によって血清群A・C・W・Yに対する予防接種の特許承認を受けています。

MenACWYワクチン接種は11-18歳の青年に推奨されています：11歳か12歳で初回接種、16歳で促進接種を行います。HIV感染者など、特定の青年は補足接種が必要となります。詳しくは医師にご相談ください。

青年に行われる標準的なワクチン接種の他、次にあてはまる場合にはMenACWYワクチン接種が推奨されています：

- ・ 血清群A・C・W・Y髄膜炎菌疾患の集団発生によりリスクが高いとされた人々
- ・ ヒト免疫不全ウイルス感染者
- ・ 鎌状赤血球症患者を含む、脾臓が損傷もしくは除去された人
- ・ 「持続性補体成分欠損症」と言われる稀な免疫系の病気にかかっている人
- ・ エクリズマブ(商品名ソリリス®)の投与を受けている人
- ・ 髄膜炎菌隔離者と日常的に接触する微生物学者
- ・ アフリカの一部など、髄膜炎菌疾患の流行地域を旅行する、またはそれらの地域に住んでいる人
- ・ 学生寮に住んでいる大学新入生
- ・ アメリカ軍新兵

適切に予防するために複数回の投与が必要な場合もあります。接種回数・時期・促進接種の必要性については医師にお尋ねください。



**3****この接種を受けてはならない場合があります。**

ワクチン接種を受ける際は、**重症疾患や生死に関わるアレルギーがある場合**必ずその旨を伝えてください。今まで血清群ACWY髄膜炎菌ワクチン接種後に生死に関わるアレルギー反応が見られた場合、または、ワクチンの成分に強いアレルギーがある場合には、ワクチンの接種はできません。ワクチンの成分について医師の説明があります。

妊婦や授乳中の母親へのワクチン接種による危険性については、あまりよく知られていません。しかし、妊娠中または授乳中であることは血清群ACWY髄膜炎菌ワクチン接種をせずに済む理由にはなりません。妊娠中または授乳中の女性でも、髄膜炎疾患にかかる恐れが高い人はワクチンを接種すべきです。

現代、風邪などの軽い病気にかかっている場合、ワクチン接種はおそらく可能です。中度から重度の病気にかかっている場合は、おそらく回復するまで待つべきでしょう。医師の診断を受けてください。

**4****ワクチン反応の危険性**

薬の副作用と同様に、予防接種にも副反応が見られる場合があります。通常症状は軽く数日で自然に治まりますが、重度の症状が見られる場合もあります。

血清群ACWY髄膜炎菌ワクチン接種後、半数を超える人が接種部分の赤み・痛みなど**軽い症状**を経験します。これらの症状が発生する場合は通常1~2日間続きます。

ごく小さい割合で、ワクチン予防接種を受ける人の中には筋肉痛や関節痛の症状が出ることがあります。

**ワクチン予防接種後に想定される問題：**

- ・ 予防接種などの医療処置を受けた場合、気を失う場合があります。15分程度座る、または横になることで失神を避け、転倒してけがをすることが防げます。めまい、立ちくらみ、視界の異常、耳鳴りなどがある場合は医師にお知らせください。
- ・ 接種後に肩に激痛があったり、接種した方の腕が動かしにくくなる場合があります。これらが見られる場合は非常に稀です。
- ・ どのような薬も強いアレルギー反応を引き起こす可能性があります。ワクチン接種によるこのような反応は非常に稀で、100万回に1回程度で、接種後数分~数時間で発生するものとされています。

他の薬と同様、ワクチン接種が深刻なけがや死亡の原因となる可能性は非常に低くなっています。

ワクチンの安全性確認は常に行われています。詳しくは、以下をご覧ください：

[www.cdc.gov/vaccinesafety/](http://www.cdc.gov/vaccinesafety/)

**5****深刻なアレルギー反応があった場合には？**

**どのようなことに注意せねばなりませんか？**

- ・ 強いアレルギー反応・高熱・行動の変化などがなく注意して観察してください。

強いアレルギー反応として、蕁麻疹・顔や喉の腫れ・呼吸困難・心拍増加・めまい・脱力感や疲労感などがあげられ、通常、接種後数分~数時間後に症状が現れます。

**どのような処置を取ればいいですか？**

- ・ 強いアレルギー反応その他の緊急事態と考えられる場合は、救急車を呼び(9-1-1)最寄りの病院で受診してください。それ以外の場合は、主治医にご連絡ください。

摂取後、ワクチン有害事象例報告データベース(VAERS)に摂取後の反応報告が必要です。報告義務は担当医師にありますが、ご本人でVAERSのウェブサイト [www.vaers.hhs.gov](http://www.vaers.hhs.gov)、またはお電話 1-800-822-7967 で自己報告することもできます。

VAERSでは医療に関する診断は行いません。

**6****全米ワクチン被害補償プログラム**

全米ワクチン被害補償プログラム(VICP)は、特定のワクチンで被害を受けた人々を救済するために設けられた連邦政府のプログラムです。

ワクチン接種による被害の疑いがある場合、電話 1-800-338-2382またはVICPのウェブサイト [www.hrsa.gov/vaccinecompensation](http://www.hrsa.gov/vaccinecompensation) でプログラム内容、補償請求方法等についてご確認ください。補償請求には申請期限があります。

**7****さらに詳しい情報は？**

- ・ 医師にご相談ください。ワクチン添付文書やその他の情報源について助言を受けることができます。
- ・ お住まいの地域か州の保健局に連絡ください。
- ・ 疾病対策及び予防センター(CDC)にご連絡ください。
  - 1-800-232-4636 (1-800-CDC-INFO) にお電話、もしくは
  - CDCのウェブサイト [www.cdc.gov/vaccines](http://www.cdc.gov/vaccines) でご参照ください

Vaccine Information Statement (Interim)  
**Meningococcal ACWY  
Vaccines**



Office use only

08/24/2018 | 42 U.S.C. § 300aa-26